



図書館となかよしになろう！

5月末になり進級・入学した子どもたちは少しずつ新しい環境に慣れ始めた頃でしょうか。学校図書館では、全学級でオリエンテーションを行い、気持ちも新たに図書館を開館されていることと思います。

オリエンテーションでは、図書館の利用の約束を確認するとともに、図書館を効果的に活用できるようにするための指導を学年の発達段階に応じて国語学習と合わせて行うと効果的です。低学年では、1年生国語「としょかんへいこう」2年生国語「図書かんたんけん」の学習で、みんなの本であることや、本の分け方、本のならべかたを学び、図書館となかよくなってほしいと思います。中学年では、3年国語「図書館たんていだん」4年国語「図書館の達人になろう」の学習で、本の分類についてや図書館の工夫について学び、自分で調べる楽しさを身に付けてほしいと思います。さらに高学年では、5年国語「図書館を使いこなそう」で、日本十進分類法について学び、本選びのはばが広がることを学び、6年国語「地域の施設を活用しよう」では、公共図書館をはじめとした、地域の施設の利用についても学び、知りたい情報は学校図書館以外でも知る施設がたくさんあることから、学びのはばを広げていってほしいと思います。

図書館には、学校司書の先生もいますので、専門的なことを話してもらったり、おすすめの本を紹介してもらったりするのも良いのではないのでしょうか。また、「学校図書館支援センター」の司書がゲストティーチャーとして支援することもできます。

上記のようなオリエンテーションで楽しく図書館について学び、「図書館の本を早く読みたい。」「〇〇のことを調べてみたい。」と子どもたちが思うことが大切です。オリエンテーションで思ったことや感じたことを、学習活動や読書活動の中で活用してこそ知識は確かなものになります。子どもたちが学んだことを自分で確認しながら本を探せるような図書館環境を整え、図書館活動のスタートをきりましょう。



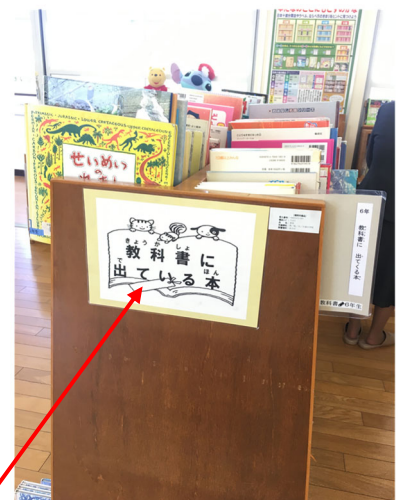
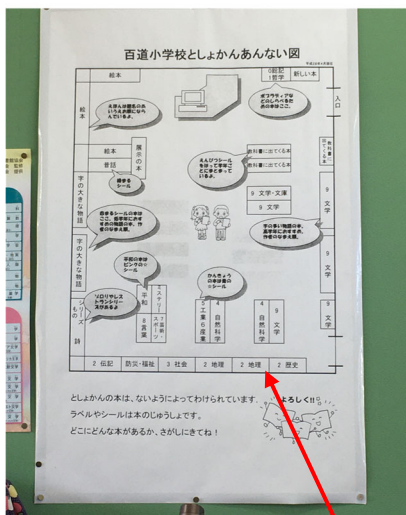
Hello! 学校図書館 百道小学校

本年度最初の訪問は、早良区の福岡市教育センターのとなりにある百道小学校に訪問しました。桜の花が子どもたちを待っている中、新年度の準備でお忙しいところ、校長先生が笑顔で迎えてくださいました。

図書館はすっきりと整理されていて、配架にさまざまな工夫がありました。

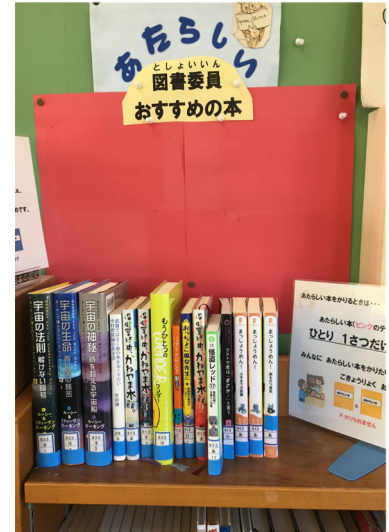


読みたい本を探しやすい工夫

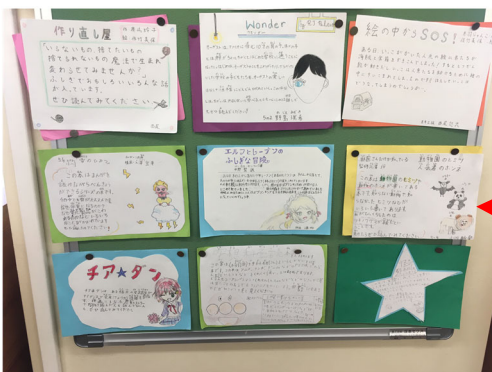


わかりやすい図書館案内図が掲示してありました。また、それを受けて書架の近くにも、子どもたちが本を探しやすい工夫がされています。自分の読みたい本を自分で探すことができるようになることは子どもたちの読書活動推進のために大切なことです。

おすすめの本のコーナー展示の工夫



「進級する子どもたち」へのコーナーにすてきな本が並んでいました。また、図書委員会からのおすすめの本のコーナーもありました。さまざまなコーナーを作って、本を紹介すると、子どもたちの本を選びの幅が広がることでしょう。

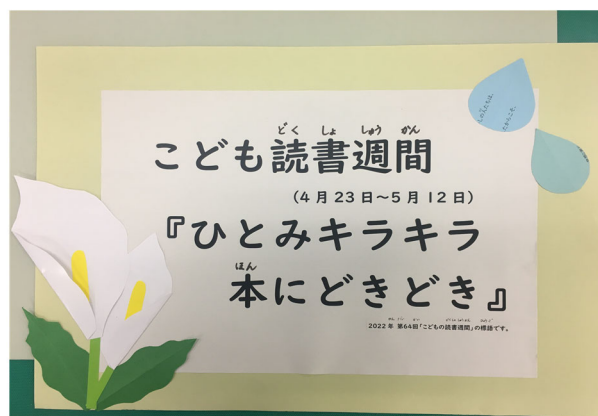
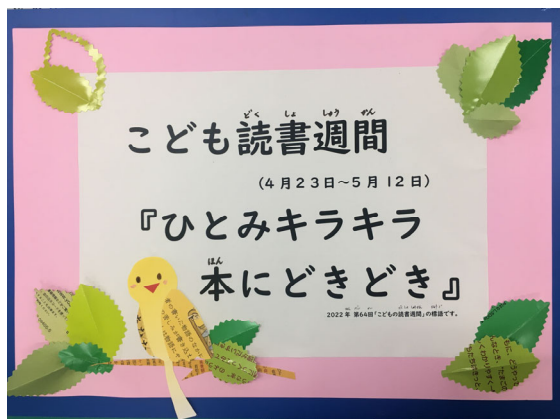


絵本のコーナーには畳が敷いてありました。子どもたちが、ゆったりと楽しみながら読んでいる姿が目につくようです。また、ポップでおすすめの本も紹介されていました。安全対策もしっかりと取られていました。

本の帯を使った5月の掲示・展示

新しいクラスにも慣れ、図書館の使い方にも少しずつ慣れた頃でしょうか。
図書館の本とも「ともだち」になってほしいと思います。

図書委員会の子どもたちと、利用しやすい図書館環境について考え、活動の一つに
全校のみんなが使いやすい図書館にするための掲示物作りもしてみましょ。



総合図書館団体貸出書架入口

風にゆれる掲示物は、
蒸し暑い日も心を癒してく
れそうですね。



6月の人どもの

6.1 気象記念日

1875年、東京に日本初の気象台が設定され、1日3回の定時気象観測と地震観測を開始したことから中央気象台(現・気象庁)がこの日を「気象記念日」と制定しました。1884年、この日には、日本で最初の天気予報が出されました。

6.16 和菓子の日

848年のこの日に仁明天皇が16個の菓子や餅を神様に供えて、健康や幸福を祈願したことにちなんで、1979年全国和菓子協会が「和菓子の日」に制定しました。日本の伝統である和菓子文化の発展をめざしています。

那須 正幹(1942.6.6~)

広島生まれの児童文学作家。主な作品に1978年発表の「それいけズッコケ三人組」をはじめとする「ズッコケ三人シリーズ」があります。3歳で被爆した那須が書いた「絵で読む広島原爆」が第43回産経児童出版文化賞を受賞しました。

川端 康成(1899.6.14~1972.4.16)

大阪生まれ。東京帝国大学在学中に書いた小説が認められ、後に「文藝時代」を創刊します。新感覚派と呼ばれ、繊細な感性で描いた作品は、高い評価を受けて日本人初のノーベル文学賞を受賞しました。代表作は「伊豆の踊子」「雪国」など。

菅原 道真(845.6.25~903.3.25)

平安時代の学者、政治家。身分の低い学者の家に生まれましたが、学問に励み、昇進を続けて右大臣にまでなりました。その後、藤原氏と対立して罪をきせられ太宰府に流され亡くなりました。学問の神様として祀られています。

サン＝テグジュペリ(1900.6.29~1944.7.31)

フランスの作家で飛行士。代表作の「星の王子さま」は、テグジュペリがリビア砂漠に不時着した経験をもとに書かれたといわれています。この小説は、日本人にとっても親しまれており、箱根には「星の王子さまミュージアム」があります。

【あとがき】5月も中旬になり、入学・進級した子どもたちは新しい環境に慣れ始めた頃でしょうか。久野和子さん(立命館大学文学部教授)は、『学校の保健室が医療的に子どもをケアする場なら、学校図書館は、この暗い時代の中で、戦争や勉強、人間関係、家庭問題などで疲れた子どもたちが、本や人との出会いによって疎外感や不安であふれる孤独な心を癒し、夢や希望を見つけられる「魂の安息の場」=良き居場所となれる、貴重な学校の資源なのです。調べ学習、探求学習の支援やデジタルライブラリーだけが学校図書館の役割・機能だけではないのです。』と、言われています。子どもを巡る様々な課題が顕在化している昨今です。居場所としての学校図書館について考えてみたいものです。(足立)



図書館員のひみつの本棚 | 93回

今月は美しいイラストで描かれた、大きな図鑑絵本をご紹介します。

『いきものづくしものづくし 1』

松岡 達英/[ほか作] 福音館書店 2021年 ¥2200 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

身近なものや、昔のもの、遠い国のものなど、さまざまな「いきもの」や「もの」を取り上げた図鑑です。39cm×30cmと大きく、広げると迫力があります。

1巻には「くだもの」「つの」「くちばし」「およぎのとくいなさかな」「ぶんぼうぐ」「くつ」「おかしのとつどう」の7つのテーマが収められており、「くだもの」にはバナナやスターフルーツ、「おかしのとつどう」ではD51やビッグボーイなどが載っています。イラストは絵本などで活躍している画家たちが描いており、どれも精密で美しく見えて飽きません。

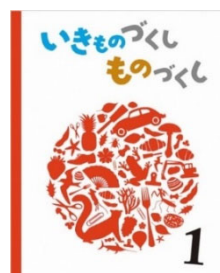
シリーズは全12巻です。それぞれに7つのテーマが収録されているので、全巻で84のテーマのものについて知ることができます。

<子どもに手渡す時のポイント>

自分の好きなテーマのページをじっと見たり、集められたもの同士の違いを見つけてみたり、現物と比べてみたり、いろんな楽しみ方ができるでしょう。広げて中を見せてあげると、より興味を持ってもらえると思います。

別冊付録として「よんでたのしむいきものづくしものづくし」という冊子がついています。本体はイラストだけなのですが、こちらは取り上げたテーマについて、知識が深まるトピックが書かれています。例えば「くだもの」の項目には、動物が食べてたねを運ぶことや、たねのないくだものについての記述があります。別冊も一緒に紹介してあげるとよいですね。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801